

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

第2710027号

(45) 発行日 平成10年(1998) 2月10日

(24) 登録日 平成9年(1997)10月24日

(51) Int.Cl.⁴

A 0 1 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 7/00

技術表示箇所

請求項の数1(全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-240907

(22) 出願日 平成7年(1995) 8月25日

(65) 公開番号 特開平9-56289

(43) 公開日 平成9年(1997) 3月4日

(73) 特許権者 595133644

武内 祥一

大阪府大阪市北区豊崎3丁目6番4号

(72) 発明者 武内 祥一

大阪府大阪市北区豊崎3丁目6番4号

(74) 代理人 弁理士 岩永 方之

審査官 長井 啓子

(56) 参考文献 実開 昭63-129455 (J P, U)

(54) 【発明の名称】 家畜用哺乳びん

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂製の哺乳びん本体の背面に、哺乳びん本体と連通する中空把手を一体的に設け、該中空把手の上方部の一側面から他側面に貫設された横孔に、把手の幅よりも長く、横孔の径よりもやや小径のバルブを挿通し、その一端に設けた鉤部が把手の側方より突出し、その突出鉤部を押圧することによりバルブを摺動自在として、中空把手内部への外気の導入、閉止が行われるように構成してなる家畜用哺乳びん。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、主として牛、馬、豚などの家畜動物、特に幼牛の授乳に用いる哺乳びんに関するものである。

【0002】

2

【従来の技術】 一般に家畜動物、例えば親牛が子牛を生むと、その子牛は親牛の母乳を飲んで育つことになる。ところが、中には母乳の出の少ない親牛がいたり、或いは親牛の乳首をうまく吸えず母乳を上手に飲めない子牛がいたりすることがある。

【0003】 また、美味で知られる和牛の生産者の間では、乳牛のホルスタインの精子を肉牛に受精させて出来た子牛の肉が良質であることから、両牛の掛け合わせが盛んに行なわれているが、この掛け合わせによって出来た子牛は、親牛の母乳を飲まないで、人の手で授乳させて育てなければならなかった。

【0004】 このような場合は、乳幼児に母乳やミルクを飲ませる時に用いる円筒形のびんと、先に小孔の明けた乳首とからなる哺乳びんを大きくしたようなものにミルクを入れて飲ませている。

10

Best Available Copy

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、この哺乳びんでの授乳は、吸引力の弱い子牛にはミルクを充分吸い込む力がなく、ミルクの出が悪くて子牛にとっては非常に飲みにくく、かつ授乳に時間がかかりすぎると共に、容器に容量目盛が施されていないので、飲み残した時にどれくらい飲んだか確認しにくいと言う問題があった。

【0006】また、この哺乳びんの容量は、500cc前後と少量であることから、授乳時には数本用意しなければならない煩わしさがあり、かつ授乳時には哺乳びんの本体を持って逆さまにしなければならず授乳させにくかった。

【0007】本発明は上記のような問題を解決することを課題として研究開発されたもので、ミルクの注出が良くなり、吸引力の弱い子牛でも容易に吸うことができると共に、片手で把手を持って授乳させるので授乳のさせやすい家畜用哺乳びんを提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本発明では、合成樹脂製の哺乳びん本体の背面に、哺乳びん本体と連通する中空把手を一体的に設け、該中空把手の上方部の一側面から他側面に貫設された横孔に、把手の幅よりも長く、横孔の径よりもやや小径のバルブを挿通し、その一端に設けた鉤部が把手の側方より突出し、その突出鉤部を押圧することによりバルブを摺動自在として、中空把手内部への外気の導入、閉止が行われるように構成してなる家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0009】また、請求項2記載の発明は、前記のように構成した家畜用哺乳びんにおいて、バルブを中空把手の上方部に付設した家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0010】さらに、請求項3記載の発明は、上記のように構成した家畜用哺乳びんにおいて、バルブは中空把手に貫設された横孔に挿通され、中空把手の一側に突出したバルブの鉤部を押進することにより、中空把手内への外気の導入、閉止が行なわれるように構成された家畜用哺乳びんを開発し、採用した。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態を、添付図面に基いて説明する。1はポリエチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリカポネード等の合成樹脂をブロー成形またはインジェクションブロー成形で形成した容量が1500cc〜2000ccの従来より使われている哺乳びんより数倍大きな哺乳びん本体で、その正面部に容量目盛線1aが施されている。

【0012】哺乳びん本体1の背面には哺乳びん本体1と連通する中空の把手2が一体的に取付けてあり、その

把手2の内側の本体1には把手2を握った時に指が当たらないように窪み部3が形成されている。また上部には本体1内を洗浄しやすいように比較的広い口部4が形成してあり、その外周部に雄ネジ4aを螺設してある。

【0013】5は子牛が咥んだりしても破れることのないや、肉厚のゴム製からなる乳首で、先端に注出孔5aが穿設されていると共に、基端部5bが穀頭円錐状に形成されており、口部4と螺合するリング締付体6の中央開口部6aに嵌って取り付けられている。

10 【0014】把手2の上方部には、一側面から他側面に貫通する横孔7が穿設されていると共に、その中央部に把手2の内部と連通する縦孔7aが明けられている。横孔7には把手2の幅Wよりも長く、横孔7の径よりもやや小径のバルブ8が挿通され、その一端に設けた鉤部9bが把手2の側方より突出して、この突出鉤部9bを指で押圧することによりバルブ8を摺動自在に構成してある。

【0015】このバルブ8は、図5に示すように、一方の外端に鉤部9aを設け、その内端側を細径の筒体10aとし、かつOリング11aが嵌る凹溝12aを設けた長筒体8aと、他方の外端に鉤部9bを設け、その内端側の先端にOリング11bが嵌る凹溝12bを設けた短筒体8bと、その長筒体8aと短筒体8bとの間に介在させた、長筒体8aの細径の筒体10aを挿通する接続パイプ13と、短筒体8bの中心孔14b内に外端側から挿入して長筒体8aの中心孔14aに到達係止させたネジ15から構成されており、このようにして長筒体8aと短筒体8bを一体化したものである。

【0016】このように構成した本発明の使用態様を説明すると、リング締付体6を緩め口部4との螺合を解き乳首5を口部4から取り脱して口部4からミルクを入れた後、乳首5をリング締付体6の中央開口部6aに差し込み、リング締付体6と口部4を螺合させて授乳させるものである。

【0017】授乳に際しては、哺乳びん本体1の把手2を片手で持ち逆さまにして、閉止されているバルブ8

（鉤部9bが把手2の右方に突出した図7の状態）の鉤部9bを人差指で押進することにより、バルブ8が左に摺動し他方の鉤部9aが把手2の左方に突出され（図6の状態）、接続パイプ13と横孔7との間に隙間Sができ、その隙間Sから空気が流入し、哺乳びん本体1に入り吸引力が弱くてもミルクの注出量が多くなり、最後まで楽に飲むことができる。

【0018】また、左方に突出した鉤部9aを反対側に押進するとバルブ8が右方に摺動し、他方の鉤部9bが右方に突出して接続パイプ13と横孔7との間の上記した隙間SがOリング11bで塞がれ空気が流入しなくなり、ミルクの注出量が少なくなる。

【0019】このように授乳時にバルブ8を左右方向に摺動自在とすることにより、バルブ8と横孔7との間の

隙間Sが外気と通じたり、塞がったりして空気の流入・閉止が行えミルクの注出量を調整できると共に、哺乳びん本体に容量目盛が施されているので、飲み残した場合、どれくらい飲んだか確認できる便利さがある。

【0020】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の家畜用哺乳びんによれば、バルブを開とすることにより、中空把手内部への外気導入が行なわれミルクの注出量が多くなり、バルブを閉とすることにより、外気の導入が阻止されミルクの注出量が少なくなり、その時の幼牛の要求量や成長度に応じてミルクの出の調整ができる便利さがある。また、片手で把手を持って授乳させるので授乳させやすくなる。

【0021】また、請求項2記載の発明によれば、把手を持つての授乳時に右利きの人はバルブを閉める時は親指で、左利きの人は人差指で行うことができ、バルブを開ける時は人差指で、左利きの人は親指で操作ができ、右利き、左利き両者兼用で手持ったまま、バルブの開閉操作を行うことができるものである。 *

*【0022】また、請求項3記載の発明によれば、一方の鉤部が把手の一側面から突出しているので、指での押圧操作が容易となりかつ確実に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の家畜用哺乳びんの正面図である。

【図2】本発明の家畜用哺乳びんの背面図である。

【図3】図2のA-A線縦断面図である。

【図4】把手の1部縦断面図である。

【図5】バルブを分解した縦断面図である。

10 【図6】バルブが開いた状態の縦断面図である。

【図7】バルブが閉じた状態の縦断面図である。

【図8】使用状態を示す説明図である。

【符号の説明】

1 哺乳びん本体

2 中空把手

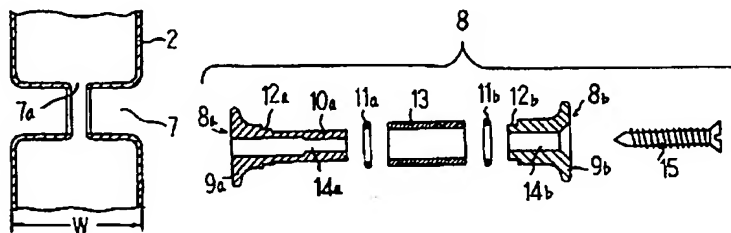
7 横孔

8 バルブ

9 a, 9 b 鉤部

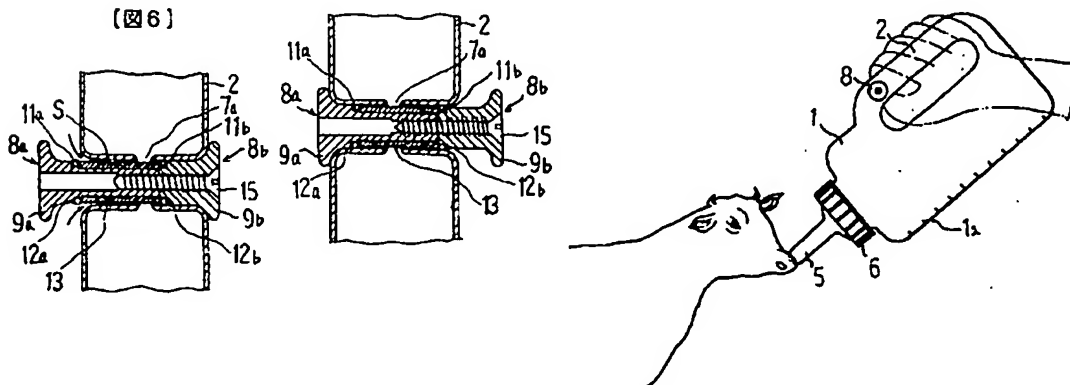
【図4】

【図5】

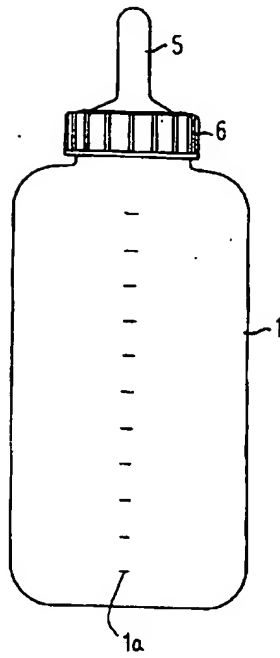


【図7】

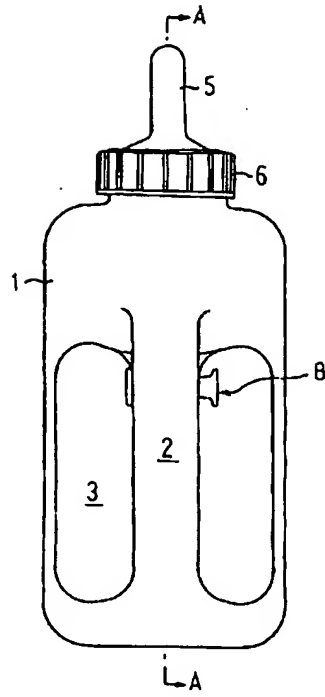
【図8】



【図1】



【図2】



【図3】

